

## 平成29年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	東京大学大学院	職名	博士課程	助成金額	200,000 円
氏名	李 舜志		印		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
情報技術を活用した公共圏の創出について——ベルナル・スティグレールの理論と実践に着目して——					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本年度の助成金の使用実績は、大きく三つに分けられる。</p> <p>ひとつは、国際学会での研究発表である。2017年の7月に広島大学で開催された Asian Link of Philosophy of Education にて研究発表を行うための交通費や滞在費として、助成金の一部を使用した。中国や韓国、台湾など東アジアの教育哲学研究者たちが一堂に会する本学会は、多様な研究関心や論点に触れることができる貴重な機会であった。研究発表の際には、英語でのレジュメの作成やオーディエンスとのやり取りに苦労したが、将来的に国際的に研究活動を遂行するためにどのようなスキルが必要であるのか知ることができたために、大変実りのある発表となった。今後とも継続的に、国内外の研究者と交流し、自らの研究の幅を広げていくことにしたい。</p> <p>もうひとつは、書籍の購入である。ベルナル・スティグレールという、いまだ日本国内でよく知られているとは言いがたい思想家のテキストや参考文献を収集するためには、海外の出版社や書店から個人的に購入するしかない。その際、助成金をもらっているという事実と、それに伴う心理的な余裕のためにより一冊 10000 円近くにもなる書籍を複数買いそろえることができた。また日進月歩とも言える速度で進歩する情報技術についての資料や、公共圏をめぐる古典的著作や最新の議論についての資料を収集する際にも、助成金の一部を使用した。</p> <p>また上記の二つの使用実績ほどの金額ではないが、論文が掲載された際に発行される抜き刷りの印刷費にも、助成金の一部を使用した。研究発表や資料の読解をもとに研究を行い、執筆した論文が、日本教育学会が発行する『教育学研究』と、『東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室紀要』にそれぞれ掲載された。その際他分野や他学会に所属する研究者との交流に使用するために、多くの抜き刷りを発行したのであるが、その際助成金の一部を使用した。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<p>上記のように、学会に参加するための交通費と滞在費、書籍代および抜き刷りの発行費である。</p> <p>交通費：東京～広島大学 約 40,000 円          滞在費：宿泊費及び食費 約 20,000 円          書籍代：スティグレールの著作および二次研究、情報技術と公共圏についての著作 約 130,000 円          抜き刷り：『教育学研究』および『研究室紀要』 約 10,000 円</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
<p><i>The Importance of Literacy</i>, Asian Link of Philosophy of Education : 2017 Summer Seminar, Hiroshima University, 2017年7月。          「ベルナル・スティグレールにおける注意概念について」『教育学研究』85巻第1号          「ベルナル・スティグレールにおける啓蒙の代補について」『東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室紀要』第44号（2018年7月発行予定）</p>					